

## 総括

- ・日本では近年の薬剤費抑制策の結果、薬価差は大幅に減少し薬剤比率も大きく低下したが、医薬品市場の先進国中における相対的なポジションは著しく低下した。
- ・国内市場が伸びない中、製薬企業はコストを圧縮しながらも、R&D投資を拡大している。
- ・その結果、有力な新薬を得てグローバルに事業を展開している企業は利益を拡大している状況にある。
- ・しかし医薬品の研究開発はそもそもリスクであり、その期間の長期化とコストの増大傾向は更に強まりつつある。
- ・産業としてのさらなる国際競争力強化のためには、研究開発を阻害せず、画期的な新薬創製を促し、その薬価上の評価を充実することが必要である。
- ・国内市場が既に横ばいになっているところに、更にそれをマイナスにするような抑制策は受け入れられない。